

## 株式会社 WOWOW プラス 番組審議会議事録（2026年1月15日開催分）

開催年月日： 2026年1月15日(木) 11:00～12:00

開催場所： 株式会社 WOWOW プラス内 Space17C 会議室

出席席数： 番組審議員 7名

WOWOW プラス 7名

### 出席者

[審議員] 青木眞弥、池ノ辺直子、音好宏、高寺成紀、富澤一誠、  
村上典吏子、湯淺正敏（以上 50 音順、敬称略）

[放送事業者] (株式会社 WOWOW プラス)

宮澤辰之、森田健介、松田健吾、植竹伸剛、篠田天馬、  
内藤友基（記録撮影）、高野佳彦（書記）

議題： (1) 2025年10月～12月の「WOWOW プラス」に対する視聴者からの問い合わせや  
指摘・意見について  
(2) 「WOWOW プラス」の番組内容、編成内容に関する審議

報告事項： 2025年10月～12月の「WOWOW プラス」に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見について

株式会社 WOWOW プラス メディア戦略局長より代表的な内容等の概要説明を行った。

審議事項： [審議番組]

『華原朋美 30th Anniversary Live～LOVE IS BEST～』

<審議番組概要>

華原朋美のデビュー30周年記念スペシャルライブ『華原朋美 30th Anniversary Live～LOVE IS BEST～』を、2025年11月23日（日・祝）に独占初放送した。

1995年9月8日に歌手デビュー以来、90年代の音楽シーンを席巻した華原朋美。このライブは30年間の集大成として、全て生バンド演奏の特別演出による一夜限りのスペシャルライブとして2025年9月9日（火）に開催されたもの。

当社は、2024年から2025年にかけて、全国19都市22公演以上を巡るコンサートツアー『華原朋美 LIVE TOUR 2024-2025～♡LOVE IS BEST♡～』および本ライブを

主催し、30年の想いが詰まったメモリアルライブの模様を収録、独占初放送を実施。

- ・本番組への評価並びに WOWOW プラス視聴者にとって価値ある番組と考えられるか
- ・WOWOW プラスが主催したイベントを収録、放送する取り組みについて

審議内容： ■審議員意見

・個人的な関心は薄いが全国19都市22公演の規模でツアーが成立するほど彼女を待ちわびたファンが存在する、ということは事実。今回の試みはある種多角的経営を踏まえた放送、配信、イベントを複合的に事業化することの1つのモデルケース的な取り組みとして認識。

・個人的な興味はそれほどなかったが2時間の番組自体は面白く拝見した。これまでドラマチックな人生を送られてきていろんなことがあったと思うが、30年前とあまり変わらず歌っているのはたいしたもの。イベント主催していくことはすなわちコンテンツを制作し蓄積するということであるので続けていってほしいと思う。今回スタッフのクレジット表記がなか

ったのでそれはダメ。また配信が予告通りにできなかつたことは従来の加入者以外が放送以外の手段で接触できる機会であったことを思うと非常に残念。

- ・華原朋美というと、流行歌手としての人気や偉業は承知しつつも奇行や容姿の変化の話題が先行するイメージで、今回も歌のパフォーマンスより、そちらに気を取られてしまった。歌に関しては突出した実力の持ち主だとは思えず、引き込まれるまでに至らず。ファンにとってはレアで、曲数も多く聞けた良い番組であったと思うのだが、煽りもMCなく、ひたすら板付きのパフォーマンスで、汗一つかかずに肅々と進行するライブは起伏がなく単調な印象。その意味では、番組冒頭に如何にWOWOWプラスならではの編成かを積極的に押し出すことで緩急を付け、自局イメージの向上に繋げるような演出がなされても良かったのではないかと思う。
- ・イベント中継/収録番組としてきちんと作られていたがそれ故に作り手側の表記がないことには何か事情があるの?と気になった。自分自身はトーク部分がないことが却ってよかったですという印象。放送メディアのイベントへの向き合いについては今変わってきていると考えており、根強く残っている層にコンテンツ提示をし、それをイベント化して展開するということは有料多チャンネルにとっては非常に重要なマーケットであるし、放送以外への展開の可能性も大いに考えられる領域なのでは、と思う。
- ・放送権だけでなく全国ツアー興行もリスクを背負っておこなつた、ということで正直よくやられたと思う。ビジネス的にも成立したことによかつたが、今なぜ華原朋美だったのか、は伺いたい。また、番組としてエンタテインメント的にどうか、というと、ファン以外の方たちがどれほど興味を持つのか、は疑問。昔の音楽番組の人気は、うきうきわくわくドキドキハラハラゾクゾク、をいかに見せるか、だったが今回これらの要素がどこまであったか、というと弱いのでは。そこがないと次につながらない。イベント実施のチャレンジはよいと思うが、誰とどう組んでやるか、やリスクについてはよくよく吟味して実施すべき。
- ・高く評価する。ツアー含めて完遂できたこと、興行的に成立したこと、最後は歌だけだったこの形が歌い手としてこの形でやりたい、という希望であったことも含めて。今年はメディアの在り方が大きく変わつていて、提供したものに対して見る側聞く側が喜んで、自分を高揚させて元気になる、ということが全てだと思う。今回コアなファン層がいて、そこに向けコンサートをやって番組化して普段見られない部分を可視化して、収支も成立しているのが素晴らしい。更に「次」を見つけることが経営であり事業、なのでどんどん取り組んで欲しい。
- ・番組自体は舞台演出がシンプルでトークなどもなく、ファンはこれが却つてありがたくアニアバーサリーコンサートの正統派なのか、とも思いつつ、編集側はだいぶ苦労をされたのだろうと感じられた。強いて言えば観客側が楽しんでいる様子、こういう方々がアーティストを支えている、という絵姿も挿入してよかつたのでは。また、可能であったならば1分でよいので冒頭ナビゲータをおいて全国ツアーのこと、独占放送・配信であること、今後も続々チャレンジすることなどをアピールしてもよかつたのでは、と思う。

---

連絡事項： 次回番組審議会は、2026年4月16日(木)午前11時(予定)より開催。

以上